

モデル事業名	漁村が誇る「3つの「あゝ」のまちづくり ～青木繁《海の幸》、安房節、アジのひらき～
活動団体名	特定非営利活動法人 安房文化遺産フォーラム
ホームページ	公式サイト http://bunka-isan.awa.jp/ 新たな公 http://bunka-isan.awa.jp/AAA/
所属/ 担当者名	事務局長 池田恵美子
連絡先	0470-22-8271/090-6479-3498/awabunka@awa.or.jp
活動地域	千葉県館山市富崎地区（布良・相浜）

● 活動地域の概要

館山市の最南端に位置し、太平洋に面しているが平地が少なく、布良（めら）と相浜（あいはま）の2集落からなる狭い地区である。沖合に2つのプレートと日本海溝があり、元禄大地震と関東大震災では甚大な津波被害を受け、隆起を繰り返した地形である。黒潮と親潮がぶつかる豊かな海域で、布良漁港と相浜漁港を有する。マグロ延縄漁発祥の地として栄えた明治41（1908）年には、クロマグロ61トンの水揚げが記録されている。しかし近年の水産業衰退に伴い、少子高齢過疎化が深刻な状況にある。

明治37（1904）年夏、日本を代表する画家青木繁が当地の小谷家に滞在し《海の幸》を描いており、昭和36（1961）年に没後50年を期し《海の幸》記念碑が建立された。同地区コミュニティ委員会と当NPO法人の呼びかけで地域活性化を旨とし、平成20（2008）年「青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会」が発足。翌年、漁村



の歴史的建造物として小谷家住宅は館山市文化財に指定された。現在、在、全国の美術愛好家やゆかりの地の人びととの交流を図りながら歴史・文化を活かした地域づくり活動をすすめている。



● 活動地域の課題

明治期にマグロ延縄船発祥の漁村として栄えていた館山市富崎地区は、基幹産業であった水産業の衰退に伴い、若者は市街地や都会へ流出し人口も激減。平成19年3月現在、世帯数527戸、人口1,140名、うち65歳以上は524名である。館山市は全国に先駆けたコミュニティ運動の先進地であるものの、市内でもとくに少子高齢・過疎化率の高い同地区ではコミュニティ活動も停滞し、独居老人や老々介護、認々介護など深刻な課題が山積している。富崎幼稚園はすでに廃園となり、児童数15名の富崎小学校も統廃合が懸念され、さらに地域活力の低下を招く状況が待ち受けている。このような現況下においては、伝統的な漁村集落ならではの生活文化や知恵の伝承も困難であるばかりでなく、日本を代表する絵画《海の幸》が誕生した地であることへの関心や誇りも薄く、青木繁ゆかりの文化遺産が後世に保存できない危機に瀕しているといえる。

● 活動の内容

（全体）少子高齢地区の富崎小学校が実践しているふるさと学習のテーマは「3つの「あゝ」＝①青木繁《海の幸》②安房節（舟唄）③アジのひらき」であり、これに象徴される伝統的な漁村集落の生活文化や知恵を見つめ直すとともに、歴史・文化遺産を利活用して地域活力を高め、子どもから高齢者まで参画するコミュニティ創生を図る。

1. 青木繁《海の幸》の「あゝ」プロジェクト … 文化遺産保存とコミュニティファンドづくりの条件整備
2. 「安房節」の「あゝ」プロジェクト … 漁村集落の生活文化の調査研究と記録伝承
3. アジのひらきの「あゝ」プロジェクト … コミュニティビジネス実現に向けての調査と人材育成

（直近1年間の進捗など）

- ① ウォーキングガイド
- ② 周辺整備・草刈り
- ③ 料理教室「おらがごっつお」
- ④ 文化財保存基金の募金

● 活動の成果

・全体（活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入）

○活動の状況

- ・ウォーキングガイド（写真） ・漁村の食文化「おらがごっつお」レシピ集作成、料理教室（写真）
- ・イラストガイドマップの制作 ・元気なまちづくり講座（写真） ・「安房節」・漁村の生活文化の調査研究
- ・小谷家住宅保存のためのアドバイザー会議・周辺の樹木伐採・草刈り

○地域内での反響・効果

- ・イラストガイドマップとレシピ集が好評。 ・地区住民らが漁村の食文化や歴史などに誇りを持ち始めた。

○周辺への波及効果

- ・「小谷家住宅」が館山市指定文化財になった。 ・観光協会などが注目し、ウォーキング企画が増えた。
- ・全国の著名な美術関係者がNPO法人青木繁「海の幸」会を設立した。



・直近1年間の成果など（活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入）

○活動の状況

- ・ウォーキングガイド・記念碑周辺の草刈り（写真）・「小谷家住宅」修理基金の募金
- ・漁村の食文化「おらがごっつお」料理教室 ・広報紙の発行

○地域内での反響・効果

- ・関心をもつ人が増えた。・老人会が「安房節」練習を始めた。（写真）・祭りが注目されるようになった。
- ・保健推進員の研修などガイド依頼が増えた。・千葉大学工学部の都市計画研究のモデル地区となった。

○周辺への波及効果

- ・ホームページへのアクセス数が増えた。・市観光課のウォーキングルート研究や案内看板設置検討が始まった。



● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

- ・自治体や教委との連携充実、文化財基金の受け皿システムづくり、「小谷家住宅」の緊急修理
- ・全国ゆかりの地との連携 ・「新たな公」としての役割を果たすための原資捻出

・展望（今後の取組みや検討について記入）

- ・今年は「没後100年」にあたり、石橋美術館やブリヂストン美術館が企画展をおこなうので、連携を図り、《海の幸》誕生の漁村ツアーを誘致するなど検討中。

● その他（自由記述）